

## 論文番号 265

### 担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

### 題名 (原題/訳)

Divalproex sodium in alcohol withdrawal: a randomized double-blind placebo-controlled clinical trial.

アルコール退薬症候におけるジバルプロックスナトリウム (デパコート) の効果: 無作為抽出二重盲検プラセボ対照臨床試験

### 執筆者

Reoux JP, Saxon AJ, Malte CA, Baer JS, Sloan KL.

### 掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcohol Clin Exp Res 25(9):1324-1329 (2001)

### キーワード

アルコール依存症、ジバルプロックス (デパコート)、臨床試験、ベンゾジアゼピン

### 要旨

#### 背景

抗痙攣薬であり、抗興奮・GABA 増強剤であるジバルプロックス (バルプロ酸誘導体) はアルコール退薬症候治療におけるベンゾジアゼピン系の代替薬物として提唱されている。この論文は、急性アルコール退薬症候におけるジバルプロックスの無作為抽出二重盲検プラセボ対照臨床試験の結果について報告する。

#### 方法

対象は、臨床協会アルコール退薬症候評価基準 (改訂版) (CIWA-Ar) で、少なくともスコア 10 以上の中等度退薬症候を出現している入院患者 36 名である。患者は無作為グループ化し二重盲検法の下に、1 日 3 回 500 mg のジバルプロックスを 1 週間投与する群とプラセボを投与する対照群に分けられた。全ての患者は基礎治療量のオキサゼパムを投与され、さらに標準退薬症候解毒プロトールに従って救済治療として使用可能な量のオキサゼパムを追加投与された。結果の解析は、オキサゼパム平均総投与量、退薬症候の進展、徴候チェックリスト-90 で評価した心理的苦痛度、薬物副作用、有害結果の各項目について 2 群間で比較した。

#### 結果

ジバルプロックスを投与した群では治療のためのオキサゼパムの使用量が有意に少なかった ( $p < 0.033$ )。2 群間の差は、主として、12 時間後の CIWA-Ar スコアで 10 以上の徴候を経験した被験者での結果によって生じていると考えられた。退薬症候の進展の程度はプラセボ対照群で有意に高かった ( $p < 0.05$ )。

#### 結論

このプラセボ対照試験研究の結果は、ジバルプロックスは急性アルコール退薬症候の進展阻止に有意に良い効果をもたらし、治療に必要なベンゾジアゼピンの投与量を減少させることを示している。より高用量のジバルプロックス投与量を用いた場合、より強力で早期の (治療効果の) 反応を得ることができると思われる。